

Dance Drill All Japan Competition 2018

WEST

Dance Challenge Cup

実施要項

1. **大会名称** Dance Challenge Cup / ダンスチャレンジカップ
2. **期 日** 2018年11月25日(日)
実施部門: JAZZ, HIP HOP, Songleading/POM, Dance Drill, SOLO, DUET, TRIO
3. **会 場** 東和薬品RACETABドーム(旧なみはやドーム) 大阪府門真市三ツ島3-7-16
4. **主 催** NPO(特定非営利活動法人)ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-5-20 押田ビル3F
TEL:03(3556)6080 FAX:03(3556)6139
HP: <http://www.dancedrilljapan.com/>
5. **大会参加費** チーム参加費17,500円(5名分の参加費含む)参加者1名追加につき3,500円
SOLO/DUET/TRIO部門は参加者一名につき5,000円。
参加費は部門毎に必要なになります。

6. 《エントリーについて》

★ 複数部門へのエントリー

エントリー後の増員、メンバー変更は認めない。

一名につき団体二部門までエントリー可。

複数部門出る場合は、重複関係がわかるようエントリーシートに記載すること。

★ エントリー受付

エントリー総数に制限があります。エントリー申込は先着順となります。

(予定エントリー総数はWEBにてご確認ください)

団体情報登録シート及び、エントリーシートの受付、参加費の入金確認をもってエントリーとします。

エントリー期間前の応募、また期間内であっても書類に不備があった場合エントリー受付致しません。

★ エントリー方法

* ホームページからエントリーシートを取得し、入力の上、下記メールアドレスへ送信して下さい。

E-Mail送付先: west@dancedrilljapan.com

★ エントリー期間

2018年10月15日(月)12時より10月19日(金)12時まで(厳守)

・上記締切前でもエントリー上限に達した時点でエントリーを締切ます。

★ エントリーの注意事項

* エントリーシートに記入漏れ、不備があった場合は無効とします。

* エントリーの際メールの送信は1エントリーにつき1通のみとし、複数人による同時申込は受付できません。

* エントリー応募の後、こちらから確認メールを返信します。順次確認メールを送信しますので、
電話でのお問い合わせ・受付前に入金は行わないで下さい。

* エントリー定員に達した際は、予告なく申し込みを締め切らせて頂く場合があります。

* メール本文に団体名と担当者名を入れ、エントリーシートに不備がないかを確認の上メールを送信して下さい。

★ 参加費振込みについて

* 参加費はエントリー受理のメールが到着後3日以内に、下記銀行口座に振込んで下さい。

入金確認をもって正式エントリーとします。

* 振込み人の名前は、エントリーした団体名と確認メール記載の申込番号を入れて振り込んで下さい。

* 振込み後の大会参加費は返還致しません。

振込先

三菱東京UFJ銀行 麹町支店 普通預金 口座0108687 口座名義 ミスダンスドリルチーム

7. 出場資格及び実施部門

クラブチーム、ダンススタジオ、学外クラブ、地域クラブ、カルチャースクール等
学校団体以外(学校名での出場不可、チーム名での出場は可)の全ての団体

編成	出場資格	実施部門					
		JAZZ	HIP HOP	Songleading/POM	Dance Drill	DUET TRIO	SOLO
Tiny	出場選手全員が 未就学児の編成	×	×	○	○	○	○
Mini	小学校4年生以下	×	×	○	○	○	○
Youth	小学校6年生以下	×	×	○	○	○	○
Junior	中学生以下	×	×	○	○	○	○
Senior	出場選手全員が 中学生以下	○	○	○	○	○	○
Open	年齢による出場 制限なし	○	○	○	○	○	○

※出場編成は年長者の出場選手に合わせる

Tiny～Junior編成についてはSongleading/POM以外の演技はすべてDance Drill部門になる

8. 演技時間

JAZZ,Songleading/Pom,HipHop,Dance Dri 2分30秒以内

Solo,Duet,Trio 1分30秒以内

※2018年より演技時間の下限は設けません。

9. 評価について

下記点数により**エントリー選手全員**にそれぞれ**金、銀、銅のメダル**が送られる。

	銅賞	銀賞	金賞
点数	～69点	70～79点	80点～

10. 演技フロア

- 演技フロアはバスケットコートと同じ縦15m×横28mとする。
会場の状況によって演技フロアのサイズを変更する場合がある。
- 演技フロアの中央に縦のラインを引く。さらにセンターポイントとして横に1mラインを引く。
- 全ての演技は演技フロアの中で行わなければならない。
- 演技フロアの保護のため、出場選手はピンヒール等、床に傷のつく恐れのあるシューズを着用してはならない。
また演技に使用するバトン、プロップ等にはゴム等を装着するなど床に傷を付けない工夫をすること。

11. 音源について

本番用音源CD・予備用音源は当日持参。

- 音楽CD形式
- 編曲されている場合でも1曲として編集すること。
- 盤面、ケースへチーム名、出場部門を記載すること。
別紙「大会使用音楽届け出書」に必要事項を入力の上、エントリーと同様のメールアドレスまで提出してください。
各種手続きの簡略化の為に、メール添付での提出にご協力ください。

出場に関する留意事項

日本語以外の歌詞の楽曲を使用する場合は、その歌詞に不適切な言葉がないか、必ず確認をすること。

特にHIP HOPの楽曲には注意すること。

12. セーフティガイドライン

本協会では、安全に競技を行うために、下記のセーフティガイドラインを設定する。

- A. シューズは必ず履くこと。(コンテンポラリーシューズ等は可)
ピアス、イヤリングは禁止。
- B. ポンポンやブロップを持った状態での演技フロア上での体重をかける技やタンプリングは禁止(ストールなどを含む)。(例外:前転・後転は認められる) 体重をかける技は何も持っていない状態の手で演技フロアに接していること。
全体重を他のメンバーにかける場合も、手に何も持っていない状態で行うこと。
※リフトの上に乗るメンバーが土台のメンバーに全体重をかけてから上に乗る場合も素手で行うこと。
- C. 空中で回転を伴うアクロバット技については一人で行うこと。
(バックフリップ、側宙、バク転、前方転回など)
人の上に乗る場合必ず出場メンバー内で補助をつけること。(肩、背中、手、膝など)
人の上から飛び降りるのは禁止。
但し、ジャンプの踏み切りから着地まで補助があれば実施可能(リフトとみなす)
※トーチジャンプをするメンバーの腰を土台のメンバーが支えて実施するのは可能。
- D. その他、審判員が危険とみなした行為。

13. ペナルティ

- (1) 8項が定める演技時間の超過が5秒以上あった場合は結果より**2点減点**する。
- (2) 10項(4)演技フロア保護の為の適切な処置がされていなかった場合(失格および修繕の為の実費請求)
- (3) 12項が定める禁止事項一人一回の実施につき結果より**2点減点**する。

14. 共通審査項目

フロア全体を使いSHOW UPされた観客を魅了するパフォーマンスとその完成度が要求されます。

【演技内容】

- ・チーム／部門ごとのオリジナリティある演技。
- ・多様なフロアの使い方、フォーメーションの連続性のある移り変わり。
- ・技の難度がチームのレベルにあっていること

【実施】

- ・正確さ(一致した動き、人と人との間隔が均等であること、など)

【演技者としての自覚】

- ・観客を楽しませる表情、表現力、アピール

【外見】

- ・工夫を凝らした美しい衣装(年齢に合ったもの。観客に不快感を与えるものは避けること。)

カテゴリーごとのテクニックにおいて難度の高さがすべてではありません。

未熟なものは逆に作品の完成度を下げってしまうことになります。

15. 部門毎の審査ポイント

※下記にある、テクニックとは各年代・チームにあったテクニックを指します。

1) SONGLEADING / POM

POMを生かし、視覚的効果のある構成と正確でシャープなアームモーションが求められます。

※全員で全体の80%以上POMを使用すること。

2) JAZZ

ダンステクニックと振付・音楽が融合した構成、技術の正確性とバレエベーシックが求められます。

3) HIP HOP

音楽と調和した連続性のある構成と、技術の正確性、ボディコントロールが求められます。

4) DANCE DRILL

設定されている部門以外のダンスジャンルであること。

各ジャンルの特徴を生かした構成が求められます。

例(ブロップ/メジャーレット/ショートフラッグ/ノヴェルティ等、Tiny～Junior編成はJAZZ、HIP HOPも含む)

5) DUET/TRIO

各ジャンルのダンステクニックと振付・音楽が融合した構成、技術の正確性が求められます。

上記1)～4)までのジャンルがベースになっている事が望ましい。

6) SOLO

ダンステクニックと振付・音楽が融合した構成、技術の正確性とバレエベーシックが求められます。

また、1人でどこまで会場を魅了できるかが求められます。